

水稻新品種「彩のみのり」の特性を活かす穂肥施用と収穫適期

農林総合研究センター（水田農業研究所）

キーワード：水稻、栽培、栽培管理、収穫調整

1 技術の特徴

2007年度に認定品種に採用され、2009年度に奨励品種に格上げされた病害虫複合抵抗性品種「彩のみのり」の品質安定化を図るため、作期別の穂肥施用時期と収穫適期を明らかにした。

2 技術内容

- (1) 早植栽培での穂肥は、出穂前20～15日に窒素成分で3kg/10aを施用する。穂肥が早いと千粒重が小さくなり、粒が大きいという品種特性を發揮できない。また、遅いと玄米の粗蛋白質含量が高まり、食味の低下が懸念される（図1）。
- (2) 早植栽培での収穫適期は、概ね出穂後41～50日の10日間で、積算気温1,040～1,230℃、帯緑籾割合80～50%の時期である（図2）。
- (3) 普通栽培での穂肥は、出穂前20日に窒素成分で3kg/10aを施用する。穂肥が早いと千粒重が小さくなり、粒が大きいという品種特性を發揮できない。また、遅いと玄米粗蛋白質含量が高まり、食味の低下が懸念される（図3）。
- (4) 普通栽培での収穫適期は、概ね出穂後43～55日の13日間で、積算気温970～1,190℃、帯緑籾割合60～20%の時期である（図4）。

3 具体的データ

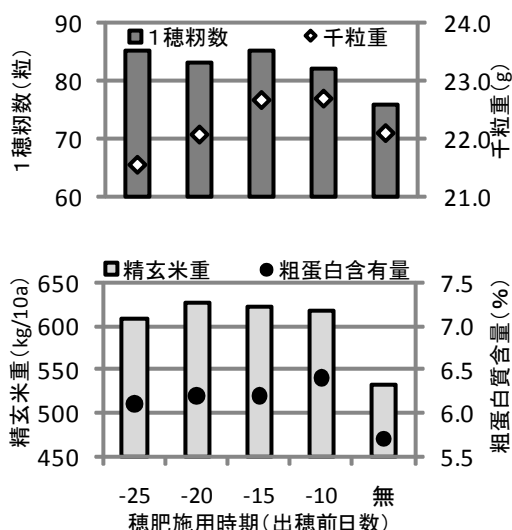


図1 早植栽培の穂肥時期と収量および品質

注)穂肥量は3kg/10a。基肥量は5kg/10a。2009年の試験成績。移植期は5月25日。玄米粗蛋白質含量は近赤外分析法(インフラテック1245)による、水分15%換算値。

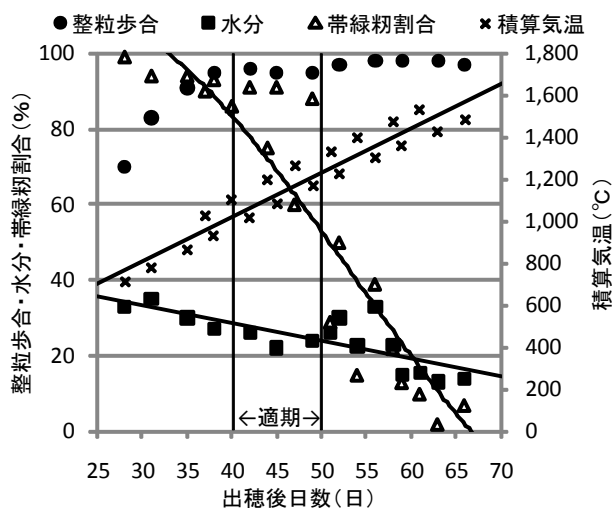


図2 早植栽培の収穫時期の目安

注)整粒歩合は1.80mm篩選後の玄米重の割合。水分は籾を測定。収穫適期は農産物検査員の玄米外観品質判定で1等級とされた範囲。2007・2009年の試験結果。移植期は5月25日。基肥窒素量5kg/10a、出穂前20日追肥3kg/10a。

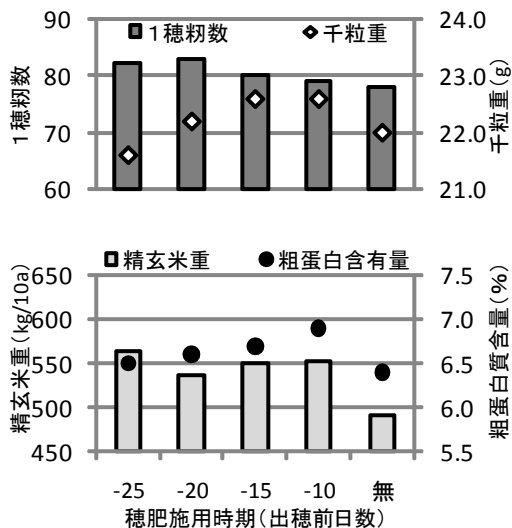


図3 普通栽培の穂肥時期と収量および品質

注)穂肥量は3kg/10a。基肥量は5kg/10a。2007～2009年の平均値、無穂肥のみ2008～2009年の平均値。移植期は6月25日。玄米粗蛋白質含有量は近赤外分析法(インフラテック1245)による、水分15%換算値。

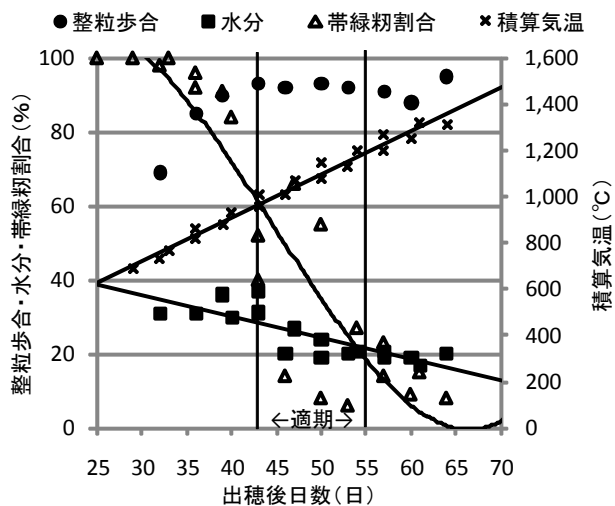


図4 普通栽培の収穫時期の目安

注)整粒歩合は1.80mm篩選後の玄米重の割合。水分は籾を測定。収穫適期は農産物検査員の玄米外観品質判定で1等級とされた範囲。2007・2009年の試験結果。移植期は6月25日。基肥窒素量5kg/10a、出穂前20日追肥3kg/10a。

4 適用地域

県内全域

5 普及指導上の留意点

- (1) 水田農研内水田 (細粒灰色低地土、宝田統)で得られた成果である。
- (2) 基肥窒素量は5kg/10aを基準とする。
- (3) 積算気温は、出穂期以降の日平均気温の積算値である。
- (4) 上記帯緑籾割合は、一粒一粒を目視により判定し、僅かでも緑色が残る籾の割合である。このため、ほ場での達観調査結果に比べ高値となる。しかし、両者には高い正の相関 ($r=0.789^{**}$) が認められることから、達観調査では早植栽培で概ね40～20%、普通栽培は30～10%が収穫の目安となる。

6 試験課題名(試験期間)、担当

水稻の中生、中晩生病害虫複合抵抗性品種の早期定着 (2007～2009年度)、米・麦担当